

掛川市・袋井市病院企業団立  
中東遠総合医療センター

医師臨床研修プログラム



中東遠総合医療センター臨床研修病院群

令和2年度

# 目 次

## 中東遠総合医療センター医師臨床研修プログラム概要

1	プログラム名称	1
2	中東遠総合医療センターの理念・基本方針	1
3	中東遠総合医療センター医師臨床研修の理念・基本方針	1
4	プログラムの目的	1
5	プログラムの特色	2
6	プログラム責任者、副プログラム責任者	3
7	研修実施施設	3
8	研修期間	3
9	臨床研修を行う分野及び研修期間	3
10	研修スケジュール（参考例）	4
11	指導体制	4
12	プログラムの管理運営体制	4
13	研修医の評価	4
14	プログラム修了の認定	5
15	研修医の募集及び処遇等	6
16	問い合わせ先	7
17	その他	7
	<b>臨床研修の到達目標</b>	<b>8</b>
	<b>令和2年度臨床研修指導体制</b>	<b>12</b>
	<b>分野別（各科）臨床研修プログラム</b>	<b>別冊</b>

# 中東遠総合医療センター医師臨床研修プログラム概要

## 1 プログラム名称

中東遠総合医療センター医師臨床研修プログラム

## 2 中東遠総合医療センターの理念・基本方針

### 【理念】

中東遠総合医療センターは、掛川市及び袋井市をはじめとする中東遠地域の基幹病院として、すべての人に質の高い医療を提供し、愛され、信頼される病院を目指します

### 【基本方針】

1. 地域連携のもとに、地域住民にとって必要とされる患者中心の質の高い医療を提供します。
2. 地域の救急体制の核として、充実した救急医療を行います。
3. 保健・医療・福祉の連携のもとに、地域住民の健康増進と健康管理に貢献します。
4. 災害時には命を守るための拠点となります。
5. 職員が誇りと働きがいを持って地域医療に尽くすことができる職場環境を整備します。
6. 良質な医療を提供するため、教育、研修を充実します。
7. 持続的かつ安定的な健全経営を実現します。

## 3 中東遠総合医療センター臨床研修の理念・基本方針

### 【理念】

地域に愛され、信頼される病院の一員として、医師としての人格をかん養し、プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身に付けるとともに、思いやりの心を持った医師を育成する。

### 【基本方針】

1. 当院の医療体制は、患者が中心となって成り立っていることを理解する。
2. 患者の将来に良い影響を与えられるように、他職種と協力して最善の医療を提供できるようになる。
3. 指導医あるいは上級医の指導の下、主体的に診療に参画し、主治医としての責務を自覚する。
4. 生涯にわたる自己学習の習慣を身につけ、症例発表や論文作成などの学術活動を積極的に行う。
5. 医師、看護師及びその他の医療従事者をはじめとする病院職員全員が研修医教育に参加する。

## 4 プログラムの目的

本プログラムは、医師としての人格をかん養し、将来の専門性に関わらず、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけることを目的とする。

## 5 プログラムの特色

### ① 静岡県内トップクラスの救急症例数と指導体制

救急部門（救命救急センター）は、救急科医師（救急専門医を含む）の指導により、ERの外来診療からICUの高度集中治療まで充実した研修が可能。救急車搬送患者数は静岡県内でもトップクラスで、近隣に同規模病院が少ないことから、24時間365日、さまざまな症例を経験することができる。

また、救命医療の主要な領域である循環器内科・脳神経外科・整形外科・外科は24時間の救急体制を敷いているなど、すべての診療科において救急科医師との連携による質の高い診療を研修できる。

### ② 研修医主体の勉強会・研修会で確実なレベルアップ

救急外来・日常診療での研修医のレベルアップを図るべく、さまざまな勉強会・研修会を企画している。

研修医自らが企画を立てて準備し勉強会を主催しており、研修医のニーズに合わせて、今必要な知識、より実践的な知識を提供できるようサポートしている。

研修医到達度試験では知識や技術の習得状況を確認し、確実なレベルアップを図っている。

内科会や臨床病理検討会（CPC）では、専門医のサポートを得て研修医が症例を発表することで、学会発表の練習にも役立てることができる。

### ③ 病院全体で研修医をサポート

毎年、医学生が当院での研修を選択する理由の上位に、「雰囲気良さ」が上げられる。

当院では各科に「臨床研修担当医師」を配置しており、毎月の研修開始時のオリエンテーション、研修指導、研修評価・フィードバックと、臨床研修担当医師が責任を持って丁寧に指導している。

また、指導医だけでなく、看護師やコ・メディカルも積極的に研修医教育に関わり、病院全体で研修医を育てる環境が整っている。「職種間の風通しがよく明るい雰囲気」は、当院の大きな特徴の一つであり、質問しやすく、わからない時は誰でも丁寧な指導を受けることができる。

### ④ 大学病院並みの充実の施設設備

当院は、平成25年に開院した病院で、施設は新しく、da VinciやPET-CTなどの最新鋭の医療設備が整っている。

### ⑤ 主要な診療科が揃い、幅広く自由度の高い研修を提供

静岡県中東遠医療圏（人口約47万人）の基幹病院として、主要な診療科が揃っていることで、さまざまな症例を幅広く経験することができ、ローテート志望から専門科志望まで、自由度の高い研修を提供している。

### ⑥ 2年連続 研修医14人 フルマッチ達成

2018年度、2019年度と2年連続で研修医14人フルマッチを達成している。

当院の研修医は全国各地の大学から集まっており、特定の大学に偏りが無いのが特徴で、誰でも研修を行いやすい雰囲気がある。

### ⑦ 初期研修から専門研修まで継続的な指導

当院では、初期研修から専門研修までの継続的な研修プログラムを構築しており、当院で初期臨床研修を修了した研修医のうち、50%以上が当院での専門研修（後期研修）を選択している。

## 6 プログラム責任者、副プログラム責任者

### (1) プログラム責任者

腎臓内科 赤堀 利行（院長補佐）

### (2) 副プログラム責任者

総合内科 伊藤 裕司（臨床研修センター長）

## 7 研修実施施設

区分	病院名	研修分野
基幹型臨床研修病院	掛川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター	内科（総合内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液・腫瘍内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科）、救急科、外科、小児科、産婦人科、脳神経外科、整形外科、麻酔科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線診断科、腫瘍放射線科、病理診断科
協力型臨床研修病院	菊川市立総合病院	精神科
	浜松医科大学医学部附属病院	精神科、選択科研修
	公立森町病院	地域医療
研修協力施設	菊川市家庭医療センター	地域医療
	森町家庭医療クリニック	地域医療
	御前崎市家庭医療センター しるわクリニック	地域医療

## 8 研修期間 2年間

## 9 臨床研修を行う分野及び研修期間

分野	研修期間	備考	
国で定める必修科目	内科	24週	ローテート
	救急部門	12週	
	外科	4週	
	小児科	4週	
	産婦人科	4週	
	精神科	4週	協力型臨床研修病院にて研修
	地域医療	4週	研修協力施設にて研修
	一般外来	4週	総合内科、小児科、地域医療の研修時に並行研修として実施
病院で定める必修科目	脳神経外科	4週	
	整形外科	4週	
	麻酔科	4週	
オリエンテーション・基礎研修	4週	1年目4月に実施	
選択科目	24週	研修先は研修医の希望により決定	

## 10 研修スケジュール（参考例）

※網がけは選択科目

### (1) 総合（ローテート）志望

ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目	基礎研修	内科（ローテート）						救急科			小児科	精神科
ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2年目	地域医療	産婦人科	麻酔科	外科	脳神経外科	整形外科	放射線診断科	眼科	皮膚科	耳鼻科	泌尿器科	救急科

### (2) 専門志望

ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目	基礎研修	内科（ローテート）						救急科			小児科	精神科
ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2年目	地域医療	産婦人科	麻酔科	外科	脳神経外科	整形外科	内科系 外科系 放射線診断科、救急科 など					

※ 個々のローテーションは、臨床研修管理委員会で調整の上、決定する。

## 11 指導体制（指導体制一覧は12ページ参照）

- (1) 研修分野ごとに、各科臨床研修担当医師を置く。
- (2) 研修医の指導にあたる者として、指導医、指導者を置く。

## 12 プログラムの管理運営体制

中東遠総合医療センター企業長兼院長を最高責任者とし、研修にあたっては、プログラム責任者が協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設の各研修指導責任者と緊密に連絡を取り、研修プログラムの問題点と再評価及び各研修医の研修・評価を行う。臨床研修管理委員会にて年1回プログラムの改定の検討、評価を行う。その調整にあたっては、臨床研修センターが事務局となる。

## 13 研修医の評価

- (1) 研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、各科の指導医又は上級医及び指導者が評価票を用いて評価し、評価票は臨床研修管理委員会（管理課）で保管する。
- (2) 上記評価の結果を踏まえて、年2回、プログラム責任者又は臨床研修センター長が研修医に対してフィードバック（形成的評価）を行う。

## 14 プログラム修了の認定

### (1) 修了基準

医師法第16条の2第1項に規定される臨床研修に関する省令「18 臨床研修の評価」に基づくものとし、具体的には研修実施期間の評価、臨床研修の目標（臨床医としての適性を除く）の達成度の評価、臨床医としての適性の評価を基準に修了を判定する。

#### ア 研修実施期間

研修医は、研修期間の間に以下に定める休止期間の上限を減じた日数以上の研修を実施しなければならない。

##### (ア) 休止の理由

研修休止の理由として認めるものは、傷病、妊娠、出産、育児その他正当な理由（病院で定められた年次休暇を含む。）とする。

##### (イ) 必要履修期間等についての基準

研修期間を通じた休止期間の上限は90日（病院で定める休日は含めない。）とする。

各研修分野に求められている必要履修期間を満たしていない場合は、休日・夜間の当直又は選択科目の期間の利用等により、あらかじめ定められた研修期間内に各研修分野の必要履修期間を満たすよう努めるものとする。

##### (ウ) 休止期間の上限を超える場合の取扱い

研修期間終了時に当該研修医の研修休止期間が90日を超える場合には、未修了とする。この場合、原則として引き続き本プログラムで研修を行い、90日を超えた日数分以上の日数の研修を行うものとする。

また、必修分野で必要履修期間を満たしていない場合も未修了として取扱い、原則として引き続き本プログラムで当該研修医の研修を行い、不足する期間以上の期間の研修や必要な診療科における研修を行うものとする。

##### (エ) プログラム責任者の役割

プログラム責任者は、研修休止の理由の正当性を判定し、履修期間の把握を行う。研修医が修了基準を満たさなくなる恐れがある場合には、事前に研修管理委員会に報告・相談するなどして対策を講じ、当該研修医があらかじめ定められた研修期間内に研修を修了できるように努めるものとする。

#### イ 臨床研修の目標（臨床医としての適性を除く。）の達成度

プログラム責任者は、研修医があらかじめ定められた研修期間を通じ、臨床研修目標及び臨床研修の到達目標について達成したか否かの評価を行う。研修医は、少なくともすべての必修項目について目標を達成しなければならない。

個々の目標については、研修医が医療の安全を確保し、かつ、患者に不安を与えずに行うことができる場合に当該項目を達成したと考えるものとする。

#### ウ 臨床医としての適性

研修医が以下の各項目に該当する場合は修了と認めないものとする。（十分慎重に検討を行い、その程度が著しい場合に限る。）

##### (ア) 安心、安全な医療の提供ができない場合

##### (イ) 法令・規則が遵守できない者

(2) 修了認定

ア 臨床研修管理委員会は、研修医の研修期間の終了に際し、研修医評価票に基づき、臨床研修に関する当該研修医の評価を行い、企業長に対し、当該研修医の評価を報告する。この場合において、臨床研修中断証を提出し臨床研修を再開した研修医については、当該臨床研修中断証に記載された当該研修医の評価を考慮するものとする。

イ 企業長は、アの評価に基づき、研修医が臨床研修を修了したと認めるときは、速やかに、当該研修医に対して次に掲げる事項を記載した「臨床研修修了証」を交付する。

## 15 研修医の募集及び処遇等

(1) 募集人員 14名(予定)

(2) 募集方法 マッチングシステムによる

(3) 応募資格 医師国家試験合格(見込み)者

(4) 応募手続

ア 応募書類 研修申込書兼履歴書、卒業(見込)証明書、成績証明書

イ 応募期間 令和2年7月1日～8月28日まで

(5) 選考方法等

ア 選考日時 令和2年7月17日、8月3日、8月7日、8月24日、9月4日

イ 選考方法 面接試験

(6) 処遇等

ア 雇用方法 非常勤職員(会計年度任用職員)

イ 給与 基本賃金 1年目 364,100円 2年目 414,800円 ※診療手当を含む

期末手当 1年目 約560,000円 2年目 約890,000円

宿日直手当(1回) 1年目 日直 15,000円 宿直 25,000円

2年目 日直 20,000円 宿直 35,000円

時間外手当(診療業務の実働に応じ支給)

**\*年収見込(1年目:650万円～700万円程度 2年目:750万円～800万円程度)**

ウ 勤務時間 原則として、土日、休日を除く午前8時15分から午後5時まで。

日当直は月4回程度とする。(当直明けの勤務は午前9時までとする。)

エ 休暇 有給休暇:1年目 10日 2年目 11日

(夏季休暇はそれぞれ3日、他には忌引き休暇等特別休暇あり)

オ 宿舎 病院周辺の物件を病院が契約して提供する。

(個人負担は、月10,000円～20,000円程度)

カ 研修医室 医局内の独立した研修医室を使用

キ 社会保険等 公的医療保険:全国健康保険協会

公的年金保険:厚生年金保険

労働者災害補償保険法の適用あり、雇用保険あり

ク 健康管理 健康診断(年1回)実施

ケ 医師賠償責任保険 病院施設賠償保険と併せ、医師賠償責任保険(包括式)にも病院として加入する。

コ 外部の研修 院外での勉強会、研修会、学会等についても、ローテーション中の診療科の長の了解



を得て、参加することができる。参加する場合は、10万円を上限に病院から旅費・参加費を支給する。

(7) その他

初期臨床研修期間中のアルバイトは、禁止する。

**16 問い合わせ先**

掛川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター 管理課職員係

〒436-8555 静岡県掛川市菖蒲ヶ池1番地の1

電話：0537-28-9501 FAX：0537-28-8971

E-mail：kensyu@chutoen-hp.shizuoka.jp

URL：http://www.chutoen-hp.shizuoka.jp

**17 その他**

本プログラムに定めるほか、当プログラムにおける臨床研修の取り扱いは、「中東遠総合医療センター臨床研修管理規程」、「臨床研修に関する取り決め事項」による。

## 臨床研修の到達目標

厚生労働省の定めた到達目標にあわせて、各診療科で定められた到達目標を、当院のプログラムの達成目標とする。

### 「厚生労働省の定める到達目標」

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

### A 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

#### 1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

#### 2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

#### 3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

#### 4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

### B 資質・能力

#### 1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

#### 2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

### 3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

### 4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

### 5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

### 6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

### 7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

### 8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

### 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

## **C 基本的診療業務**

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

### **1. 一般外来診療**

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

### **2. 病棟診療**

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。

### **3. 初期救急対応**

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

### **4. 地域医療**

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

## **経験すべき手技**

気道確保、人工呼吸（徒手換気を含む）、胸骨圧迫、圧迫止血法、包帯法、採血法（静脈血、動脈血）、注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）、腰椎穿刺、穿刺法（胸腔、腹腔）、導尿法、ドレーン・チューブ類の管理、胃管の挿入と管理、局所麻酔法、創部消毒とガーゼ交換、簡単な切開・排膿、皮膚縫合、軽度の外傷・熱傷の処置、気管挿管、除細動等の臨床手技を身につける。

## **経験すべき検査**

一般尿検査、尿沈渣顕微鏡検査、便検査、血液検査（生化学、血算、白血球分画、免疫血清学、血型判定、交叉適合試験、動脈血液ガス分析、免疫細胞検査、アレルギー検査）、心電図（12誘導、負荷試験）、培養検査（痰・尿・血液）、細菌学的検査（グラム染色など）、呼吸機能検査、髄液検査、細胞診、病理組織検査、内視鏡検査、単純X線検査、CT検査（単純、造影）、MRI検査、核医学検査、神経生理学検査（脳波、筋電図）、超音波検査

## **経験すべき症候（29症候）**

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便秘異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

### 経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

## 令和2年度 臨床研修指導体制

### 1 プログラム責任者

腎臓内科 赤堀 利行（院長補佐）

### 2 副プログラム責任者

総合内科 伊藤 裕司（臨床研修センター長）

### 3 各科臨床研修担当医師

診療科	役職	氏名
総合内科	部長	伊藤 裕司
糖尿病・内分泌内科	診療部長	日吉 泰雄
腎臓内科	院長補佐	赤堀 利行
血液・腫瘍内科	診療部長	神谷 悦功
脳神経内科	副院長	若井 正一
呼吸器内科	部長	小沢 直也
消化器内科	診療部長	高柳 正弘
循環器内科	副医務局長	森川 修司
外科	医務局長	京兼 隆典
整形外科	院長補佐	浦崎 哲哉
脳神経外科	副院長	市橋 鋭一
小児科	診療部長	岩島 覚
産婦人科	診療部長	村上 裕介
泌尿器科	診療部長	松本 力哉
皮膚科	診療部長	大塚 正樹
眼科	医長	宇佐美 貴寛
耳鼻いんこう科	副医務局長	臼井 広明
麻酔科	副医務局長	内山 智浩
救急科	部長	松島 暁
放射線診断科 （I V R・画像診断センター）	部長	橋本 奈々子
腫瘍放射線科	診療部長	一戸 建志
病理診断科	医長	鈴木 大介

#### 4 指導医・上級医

- ・指導医：臨床経験7年以上で、指導医講習会を受講した医師
- ・上級医：臨床経験2年以上の医師

診療科	役職	氏名	区分
総合内科	部長	伊藤 裕司	指導医
	部長	大瀬 綾子	上級医
	部長	牧 隆太郎	指導医
糖尿病・内分泌内科	診療部長	日吉 泰雄	指導医
	診療部長	山田 隆之	上級医
腎臓内科	院長補佐	赤堀 利行	指導医
	部長	稲垣 浩司	指導医
	医長	高梨 昌浩	上級医
	医長	峠田 直人	上級医
	医員	鈴木 浩二	上級医
血液・腫瘍内科	診療部長	神谷 悦功	上級医
脳神経内科	副院長	若井 正一	指導医
	医長	赤塚 和寛	上級医
呼吸器内科	部長	小沢 直也	指導医
	医長	飯島 淳司	上級医
	医長	三上 智	上級医
	医員	長崎 公彦	上級医
	医員	太田 智陽	上級医
	医員	柴田 立雨	上級医
消化器内科	診療部長	高柳 正弘	指導医
	部長	細野 功	指導医
循環器内科	副医務局長	森川 修司	指導医
	診療部長	紅林 伸丈	指導医
	部長	城向 裕美子	上級医
	医長	大鐘 崇志	指導医
	医長	鶴見 尚樹	上級医
	医長	鈴木 智隆	上級医
	医長	岩脇 友哉	上級医
	医長	井上 直也	上級医
外科	企業長	宮地 正彦	指導医
	医務局長	京兼 隆典	指導医
	診療部長	河合 徹	指導医
	部長	川合 亮佑	指導医
	部長	山崎 公稔	上級医
	部長	中橋 剛一	上級医

診療科	役職	氏名	区分
外科	医員	柴田 淳平	上級医
	医員	茂野 佐弓	上級医
	医員	古橋 広樹	上級医
血管外科・乳腺外科	副院長	久世 真悟	指導医
整形外科	院長補佐	浦崎 哲哉	指導医
	診療部長	石井 久雄	上級医
	部長	小早川 晃範	上級医
	医長	宮入 祐一	指導医
	医長	山路 哲史	上級医
	医長	長田 直祥	上級医
	医長	横井 寛之	上級医
脳神経外科	副院長	市橋 鋭一	指導医
	診療部長	鳥飼 武司	上級医
	部長	松尾 州佐久	上級医
	部長	北村 拓海	上級医
小児科	診療部長	岩島 覚	指導医
	診療部長	矢田 宗一郎	上級医
	部長	關 圭吾	上級医
	部長	塩澤 亮輔	指導医
	部長	早野 聡	上級医
	医員	勝木 純一郎	上級医
	医員	猿渡 ちさと	上級医
産婦人科	診療部長	村上 裕介	指導医
	診療部長	田中 晶	上級医
	医長	福地 千恵	上級医
	医長	林 立弘	上級医
	医長	小田木 秋人	上級医
泌尿器科	診療部長	松本 力哉	指導医
	医長	渡邊 俊輔	上級医
	医長	杉山 桃子	上級医
	医員	鈴木 英斗	上級医
皮膚科	診療部長	大塚 正樹	上級医
	医員	小倉 康晶	上級医
	医員	森本 広樹	上級医
眼科	医長	宇佐美 貴寛	上級医
	医長	永田 佑衣	上級医
	医長	武内 宏樹	上級医
	医長	遠藤 智己	上級医
	医員	八角 光起	上級医



診療科	役職	氏名	区分
耳鼻いんこう科	副医務局長	臼井 広明	指導医
	部長	近藤 玄樹	指導医
	部長	疋田 由美子	上級医
放射線診断科	診療部長	石原 雅子	指導医
腫瘍放射線科	診療部長	一戸 建志	指導医
麻酔科	副院長	山本 洋子	指導医
	副医務局長	内山 智浩	指導医
	部長	平出 恵理	上級医
	部長	秋永 泰嗣	指導医
	医長	小林 弘樹	上級医
	医長	大竹 麻美	上級医
病理診断科	医長	鈴木 大介	上級医
臨床検査科	医長	山本 史子	上級医
救急科	部長	松島 暁	指導医
	部長	浅田 馨	上級医
	部長	大林 正和	指導医
I V R ・ 画像診断センター	部長	橋本 成弘	指導医
	部長	橋本 奈々子	指導医
臨床研修センター	医員	飯田 景子	上級医
	医員	名嘉原 忠博	上級医
	医員	木内 朝海	上級医
	医員	古澤 眞	上級医
	医員	石野 綾子	上級医

5 指導者

職 種	部署（病棟）	役 職	氏 名
看護師	看護部	看護部長	八木 純
		副看護部長	萩田 久美子
		副看護部長	鈴木 良枝
		副看護部長	杉山 久美子
		副看護部長	中川 穂波
		副看護部長	石田 佳子
		師長	村上 真弓
		副師長	兼子 仁美
	第1外来	師長	久野 千年
		副師長	石田 幸子
		副師長	大岡 和代
	第2外来	師長	鈴木 貴子
		副師長	大原 知奈美
		副師長	寺田 芳明
	手術センター・中央材料室	師長	工藤 美和
		副師長	鍵山 喜代美
		副師長	松浦 三奈子
	血液浄化センター	師長	兼子 一恵
		副師長	田辺 真奈美
	救命救急センター	師長	山田 貴江
		副師長	外山 和加子
		副師長	三浦 由視
	I C U ・ C C U	副師長	上田 洋子
		副師長	窪野 宏美
	4階東病棟	師長	西尾 一枝
		副師長	宮崎 なをみ
		副師長	服部 映子
	4階西病棟	師長	小島 清美
		副師長	堀 絢子
		副師長	中谷 みゆき
		副師長	菅沼 幸代
	5階東病棟	師長	水野 芳枝
		副師長	名波 昌子
		副師長	村松 清子
	5階西病棟	師長	清水 里美
		副師長	赤堀 房子
		副師長	杉山 聖子

職 種	部署（病棟）	役 職	氏 名
看護師	6階東病棟	師長	出野 章子
		副師長	藤田 和代
		副師長	山鳥 藍
	6階西病棟	師長	鈴木 智子
		副師長	平尾 佐知子
		副師長	赤堀 樹里
	7階東病棟	師長	齊藤 ゆかり
		副師長	石牧 ひとみ
	7階西病棟	師長	永井 洋子
		副師長	青木 徳子
		副師長	蓮池 のり子
		副師長	泉地 絵里
	8階東病棟	師長	名倉 和子
		副師長	奥野 雪枝
		副師長	武井 美佳
	8階西病棟	師長	伊藤 優子
		副師長	小野 美登利
		副師長	太田 和代
医療安全管理室	参与	松井 とも子	
感染対策管理室	副師長	斎藤 ちはる	
地域医療支援センター	師長	鈴木 弘美	
	副師長	鈴木 明美	
薬剤師	薬剤部	薬剤部長	伊藤 政治
		薬剤室長	中山 貴美子
		技官	澤口 和代
		副室長	渥美 仁
		副室長	田辺 由紀子
		主査	北島 信三
		主査	井出 直仁
診療放射線技師	診療放射線室	診療放射線室長	春田 孝博
		技監	天野 仁志
		副室長	中山 修
		副室長	水間 健二
		主査	土井 良高
		主査	小栗 徳彦
		主査	糟谷 信貴
臨床検査技師	診療技術部	診療技術部長	杉浦 文美
	臨床検査室	室長	後藤 文子
		副室長	武藤 淳

職 種	部署（病棟）	役 職	氏 名
臨床検査技師	臨床検査室	副室長	石堂 統
		主査	有吉 啓子
		主査	河原崎 敏持
		主査	上村 桂一
		主査	森下 裕子
		主査	平島 博子
		主査	鈴木 直子
		主査	大塚 美和
		主査	鈴木 健之
理学療法士	リハビリテーション室	室長	黒田 勝
		主査	服部 賢哉
		主査	川合 旬美
作業療法士		副室長	鈴木 基文
言語聴覚士		副室長	宮田 豊
管理栄養士	栄養室	室長	天野 香世子
臨床工学技士	臨床工学室	室長	鈴木 誠悟
社会福祉士（MSW）	地域医療支援センター	主任主査	山田 智也
		主査	鈴木 真寿実

6 協力型臨床研修病院・研修協力施設 研修実施責任者・指導医・上級医

施設名	研修分野	役職	氏名	区分
菊川市立総合病院	精神科	診療科長	大城 将也	研修実施責任者 指導医
浜松医科大学医学部 附属病院	内科	第二内科講座教授	須田 隆文	研修実施責任者 指導医
	放射線科	放射線腫瘍学教授	中村 和正	上級医
	精神科	精神医学教授	山末 英典	上級医
	精神科	精神医学准教授	桑原 斉	上級医
	精神科	児童青年期精神医学特 任教授	高貝 就	指導医
	精神科	精神科神経科講師	和久田 智靖	指導医
	精神科	精神科神経科講師	竹林 淳和	指導医
	精神科	精神医学助教	横倉 正倫	指導医
	精神科	精神医学助教	亀野 陽亮	指導医
	精神科	精神科神経科助教	栗田 大輔	指導医
	精神科	子どものこころの発達 研究センター教授	武井 教使	上級医
	精神科	子どものこころの発達 研究センター特任教授	土屋 賢治	上級医
	精神科	精神科神経科助教	宇佐美 梨奈	指導医
	精神科	精神科神経科助教	吉田 理歩	上級医
	リハビリテーション科	リハビリテーション部准教授	山内 克哉	指導医
	リハビリテーション科	リハビリテーション部助教	永房 鉄之	指導医
	リハビリテーション科	周産期等生活機能支援 学特任助教	渡邊 浩司	指導医
	リハビリテーション科	リハビリテーション科診療助教	有賀 隆裕	上級医
	形成外科	形成外科診療助教	松下 友樹	指導医
	形成外科	形成外科診療助教	太田 悠介	指導医
	形成外科	形成外科診療助教	山田 萌絵	指導医
	形成外科	形成外科診療助教	東堂 暢子	上級医
	形成外科	形成外科医員	成瀬 莉沙	上級医
形成外科	形成外科医員	岡崎 孝朱	上級医	
公立森町病院	地域医療	院長	中村 昌樹	研修実施責任者 指導医
	地域医療	内科部長	岩本 達治	指導医
	地域医療	外科部長	大場 浩次	指導医
	地域医療	副院長	水野 義仁	指導医

施設名	研修分野	役職	氏名	区分
菊川市家庭医療センター	地域医療	医長	松田 真和	研修実施責任者 指導医
森町家庭医療クリニック	地域医療	所長	鳴本 敬一郎	研修実施責任者 指導医
	地域医療	医長	棚橋 信子	指導医
御前崎市家庭医療センターしろわクリニック	地域医療	所長	吉野 弘	研修実施責任者 指導医